

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H24年度末現在）	進捗状況（H25年度末現在）	地区振興計画	H25当初予算	H26当初予算	事業完結分
H24	1	手打	手打港待合所の利活用について	企業・港振興課	<p>今年4月からの寄港地集約により、長年慣れ親しんだ高速船が手打港に寄港しなくなったことは、手打地区皆様にとり大変辛く寂しいことであり、皆様の心中は十分理解できるところである。また、寄港地集約後は、航路利用者がいなくなったことにより、待合所周辺で営業される店舗などには少なからず影響があると考えているところである。</p> <p>そこで、市としては手打待合所を利活用した地域の活性化を図るため、待合所利活用調査・検討事業を今年度実施する予定である。具体的には、専門のコンサルタントに依頼し、地域の現状、素材などの把握や地域住民の皆様との意見交換を行う検討委員会の開催により、地域の皆様方の声を吸い上げ、できるだけ地域が主体的に運営できるような施設活用案などの具体的計画を作ってもらいたいと考えている。</p> <p>今回、御提案いただいている観光施設、食堂、みやげ物店などの御意見も、この検討委員会の中で十分検討してまいりたいと考えているので、皆様方の御理解・御協力をお願いしたい。</p>	<p>手打港旅客待合所の利活用については、平成24年度「甌島旅客待合所調査・検討業務」を実施して、アンケート調査やワークショップを行い、食事提供・物産売場として活用したいとの方針が出された。</p> <p>これを受けて、平成25年度は運営主体の検討を行い、地区コミュニティ協議会が運営組織をつくり、地区の各種団体等と連携して運営することとなった。</p> <p>平成26年度は、この運営組織を支援するための研修を行うとともに施設改修の準備を行うこととしている。</p>					
H24	2	子岳	津波などのための避難道路と避難場所の確保 片野浦の浜田地区は、海拔10メートル以下であり、東日本大震災規模の災害が発生すれば、全滅となる地区である。 浜田地区の住居は、子岳川を挟んで建てられており、津波が発生すれば川が水路となり、海水があふれ、全て建物が破壊される可能性が高く、避難場所の設置が緊急の課題である。しかも、住居が川を挟んでいるため、避難場所も2か所以上の避難路、避難場所が必要である。以前は畑作りで、細い道路が高台まであったが、現在高齢化で、高台での畑作りする人もなく、荒地地になり、道も竹や雑木が生茂り通行できなくなっている。この道を拡幅し避難道路とし、高台に避難場所を確保したい。 前述したように、子岳川を挟んで住宅があるので、素早く避難が可能と思われる白浜地区（通称：チョウエングタ）、松山地区（通称：コーゲシ）の海拔30メートル以上の2か所に避難道路と避難場所の確保をお願いしたい。	防災安全課	<p>片野浦の浜田地区は、片野浦湾のすぐ近くに位置し、ほとんどの住宅は標高0メートルから10メートルまでの場所に立地。10メートル規模の津波が来れば、甚大な被害が出るのが予想されているところである。東日本大震災を受けて、市としては市民の皆様を津波災害から守るため、津波看板の設置や海拔を表示した津波ハザードマップなどを配布させていただいた。</p> <p>また、津波避難場所の設定や津波避難訓練の実施についても、沿岸地区の自主防災組織を中心をお願いしているところであり、浜田地区においては、協議していただいた結果、浜田川の対岸の高台と岡を津波避難場所として、設定させていただき、配布した津波ハザードマップにも掲載した。</p> <p>実際に津波警報が発令されると、全国瞬時警報システムで直ちにお知らせし、また、津波が到達するまでにある程度の時間がかかることから、自主防災組織を中心として、災害時要援護者を介添えしていただきながら、ただちに避難していただきたいと考えている。</p> <p>まずは、現在の2箇所の津波避難場所への避難訓練実施をしていただき、避難時間やその際の問題点などを確認していただきたい。また、市では各地区で設定された津波避難場所への避難路について、安全に避難できるよう、例えば、階段・手摺りの設置などを順次行ってまいりたい。御要望のあった避難道路と避難場所の確保については、現在の津波避難場所や経路についての問題点などを洗い出し、関係課などと協議しながら、どのような方策を講ずれば良いか検討してまいりたい。現在、設定させていただいている避難場所の問題点の外、御要望の箇所についても、今後、支所を通じて協議させていただきたい。</p>	<p>津波看板の設置や海拔を表示した津波ハザードマップなどを配布した。</p> <p>まずは、現在の2箇所の津波避難場所への避難訓練実施をしていただき、避難場所、時間などの問題点などを確認していただきたい。</p> <p>また、御要望のあった避難道路と避難場所の確保については、現在の津波避難場所や経路についての問題点などを洗い出し、関係課などと協議しながら、どのような方策を講ずれば良いか支所と協働して検討したい。</p>					
H24	3	西山	大内浦線の道路 舗装のお願い	林務水産課	<p>薩摩川内市全体で、合併後、林道は139路線あり、総延長が全体で、390kmである。うち、甌島については、約3割強の120km、路線数にすると28路線である。舗装率は市全体で62%であるが、甌島は約80%という状況である。</p> <p>甌島の林道については、御指摘のあったとおり、単に林業の作業道路ということだけでなく、生活用の道路、観光用の道路という機能も担っているという認識を持っている。実際は甌島地域全体を見ながら、具体的な、国・県の補助が取り入れられそうなものから順次、その状況をみながら実施しているところである。</p> <p>下飯地域については、現在、支所と相談の上、手打地区の林道釣掛線を平成22年度から平成27年度までの予定で整備を進めているところである。</p> <p>今回の御要望については、地元として強い要望であるということは承ったが、このような状況である。今回の大内浦線を含めて、今後全体的な計画的整備という観点から、財源が確保されたものから、少しずつ実施したいと考えている。</p>	<p>釣掛線の改良工事が平成27年度まで計画しているため、その後検討して参りたい。</p>	平成27年度から計画予定				○
H24	4	内川内	内川内震道小屋床線の道路補修について	耕地課	<p>当線については、集落内の生活幹線道路で、農地とその集落を繋いでいる非常に重要な道路であると承っている。急峻な地形に、内川内自体が存在しているということで、台風襲来時、大雨の時には、側溝の閉塞や路肩の破壊などという状況にあると伺っている。市の方ではできるだけ、大きな被害にならないよう、平日頃から、側溝の整備・浚渫、路肩の修繕など、何かあった時は、直ちに対応している状況である。これも予算の関係上、一気に、抜本的に実施することは厳しい面もあるが、支所と連携しながら、できるところからさせていただきたいと考えている。</p>	<p>維持修繕的な側溝補修・浚渫・道路の陥没舗装修繕等急いで対応しなければならぬ箇所については、予算の範囲内で実施している。</p>					○

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H24年度末現在）	進捗状況（H25年度末現在）	地区振興計画	H25当初予算	H26当初予算	事業完結分
H24	5	長浜	道路拡張に伴う交通量の緩和及び事故防止	建設整備課	<p>この道路については、狭く、見通しも悪いということで、通行に大変苦勞されておられるように考える。今回、この路線については、一方側に4戸程の住宅が建っている。もう片方は長浜川となっている。これを住宅側へ拡張すると、関係者の方々の同意はもちろんであるが、建物などの移転補償費に多額の費用を必要とするということで、非常に厳しいと考えている。</p> <p>それでは、川の方へ広げるといことはどうかとなると、この長浜川については、県の砂防指定地という位置付けがある。概略ではあるが、河川側の方に拡張ができないか、県と協議を行った。砂防指定地の河川については、上流部の方から土石・竹・木などが流れてくるといことで、川の方へ広げることも制約・制限があるとの話があった。現在の川の断面を狭めない嵩上げであれば、可能ではないかという話であった。ただ、この場合も課題がいくつかある。県と協議の中で、どれくらい嵩上げをしなければならぬかということ。川の方へ広げる分だけの嵩上げをするとなると、現在の道路との段差ができ、現在の道路そのものも嵩上げをしなければならぬ。このような場合、現在の住宅側への影響ということもあり、技術的にどの程度まで、川へ広げられるかといった問題もある。</p> <p>このような難しい課題もあるので、当然、事業化に向けては解決していかなければならないことである。そのためには、先ず調査を行い、県の方と詳細に協議を行っていきたいと考えている。このようなことを踏まえて、地区コミュニティ協議会、地元の方と話をさせていただきたいと考えている。従って、しばらく時間を要するということを御理解いただきたい。</p>	<p>・必要性は認識しており、今後工法検討や県との協議、財源の確保を検討したい。</p>	<p>・未着手</p>				
H24	6	青瀬	<p>市所有の有効活用して高齢者の生きがいづくり</p> <p>市所有の市営大川住宅前のゲートボール場を無償で貸与してもらい、農園開設の費用は、提案公募型補助金を利用させていただきたい。</p>	建築住宅課	<p>この貸し出しを希望されている土地については、旧下飯村が大川住宅を整備する際に、地元からの要望により、住宅敷地と一体で購入して、ゲートボール場として整備をしたが、現在は、ほとんど使用されていない土地であるとのことである。住宅用地ということ、行政財産として市が管理をしている。</p> <p>今後、市営住宅の増築などの計画も無いので、地元へ貸し出しをするということも可能であると考えている。具体的には地区コミュニティ協議会と協議をしながら、詳細に詰めていきたいと考えている。今回、貸し出すことは可能である。農園として、高齢者だけでなく幼稚園の話もされたが、次の更新の際に同じように、農地として貸し出すという話であれば、特定農地貸付法という法律の適用を受けるとのことである。農地の貸付を適正に行うための管理・運営の規定を作成し、農業委員会の承認を受けなければならないことになっているようである。詳細については、農業委員会の事務局へ御相談いただきたい。</p> <p>また、提案公募型の補助金を利用したいとのことであるが、詳細な計画などがわからないので、この内容で該当するかどうかの判断できない状況である。詳細な計画を詰められてから、市へ御相談いただきたい。</p>	<p>この貸し出しを希望されている土地については、今後、市営住宅の増築などの計画が無いので、地元へ貸し出しをするということも可能であると考えている。</p> <p>まずは地元で提案公募型の補助金申請と絡めた計画を詳細に検討いただいたのち、支所へ御相談いただきたい。</p>					○
H24	6	青瀬	<p>市所有の有効活用して高齢者の生きがいづくり</p> <p>市所有の市営大川住宅前のゲートボール場を無償で貸与してもらい、農園開設の費用は、提案公募型補助金を利用させていただきたい。</p>	コミュニティ課	<p>この貸し出しを希望されている土地については、旧下飯村が大川住宅を整備する際に、地元からの要望により、住宅敷地と一体で購入して、ゲートボール場として整備をしたが、現在は、ほとんど使用されていない土地であるとのことである。住宅用地ということ、行政財産として市が管理をしている。</p> <p>今後、市営住宅の増築などの計画も無いので、地元へ貸し出しをするということも可能であると考えている。具体的には地区コミュニティ協議会と協議をしながら、詳細に詰めていきたいと考えている。今回、貸し出すことは可能である。農園として、高齢者だけでなく幼稚園の話もされたが、次の更新の際に同じように、農地として貸し出すという話であれば、特定農地貸付法という法律の適用を受けるとのことである。農地の貸付を適正に行うための管理・運営の規定を作成し、農業委員会の承認を受けなければならないことになっているようである。詳細については、農業委員会の事務局へ御相談いただきたい。</p> <p>また、提案公募型の補助金を利用したいとのことであるが、詳細な計画などがわからないので、この内容で該当するかどうかの判断できない状況である。詳細な計画を詰められてから、市へ御相談いただきたい。</p>	<p>提案公募型補助金については、平成25年度から市民活動支援補助金のステップアップコースとして、元の補助金を改めて新制度として導入することになった。地元で計画が具体化し、実際に申請される時点で、計画の内容等詳細については当課に相談いただきたい。</p>	<p>回答と同様</p>				○

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H24年度末現在）	進捗状況（H25年度末現在）	地区振興計画	H25当初予算	H26当初予算	事業完結分
H24	7	鹿島	コミュニティ運行路線の見直しについて	商工振興課	<p>現在、長浜・鹿島線の長浜港19時10分発の便については、芦浜集落を経由し、鹿島港へ19時39分に到着するように運行をしている。この便について、芦浜バス停で降りる乗客がいない場合に限り、芦浜を経由しないで、直接、鹿島港へ運行することはできないかということである。芦浜で降りる乗客がいない場合に限り、芦浜を経由しない条件付き運行は可能である。</p> <p>しかしながら、このことは、同時に芦浜からの乗車ができなくなることになる。そのようなことであるので、芦浜から鹿島港への乗車が殆ど無く、影響がないということで、芦浜自治会の御理解が得られれば、可能であると考えている。</p> <p>なお、今年4月に運行を開始した飯島地域のコミュニティバスについては、今年上半期の利用実態を検証し、下半期に運行路線の見直し・検討を行い、来年4月を目途に路線などの変更を行うこととしている。今後、鹿島地区コミュニティ協議会及び芦浜自治会と十分調整をさせていただきたいと考えている。</p>	<p>長浜・鹿島線の長浜港19時10分発の便については、御要望のとおり、平成25年7月から芦浜バス停で降りる乗客がいない場合に限り、芦浜を経由しないで、直接、鹿島港へ行く条件付き運行に変更予定である。</p>	<p>長浜・鹿島線の長浜港19時10分発の便については、御要望のとおり、平成25年7月から芦浜バス停で降りる乗客がいない場合に限り、芦浜を経由しないで、直接、鹿島港へ行く条件付き運行に変更した。</p>		○		○